

## 平成31年夏の天候予想（6月～8月）

### 平均気温・降水量

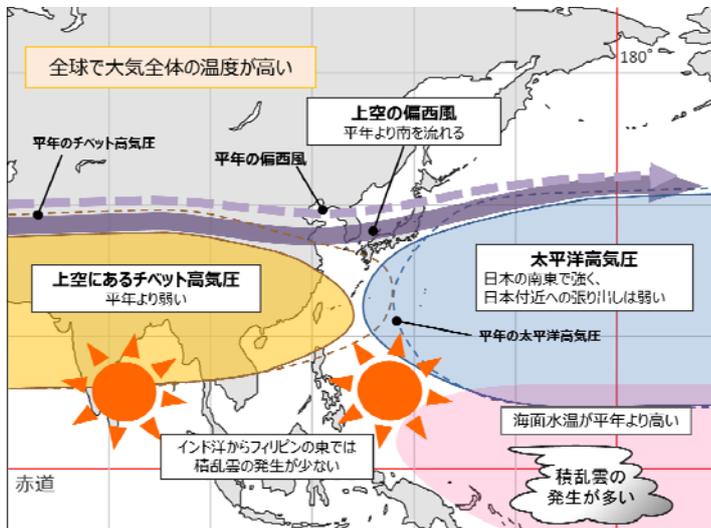
気温 夏（6～8月）	降水量 夏（6～8月）	梅雨の時期の 降水量 （6～7月）
低 並 高	少 並 多	少 並 多
30:40:30	20:40:40	30:30:40
平年並	平年並か多い	ほぼ平年並

- 太平洋高気圧の張り出しが弱いため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- 前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう3か月の降水量は平年並か多いでしょう。

## 数値予報結果をもとにまとめた 予想される海洋と大気の特徴 6～8月

### 全球の大気

地球温暖化の影響等により大気全体の温度が高いでしょう。



### 熱帯域

エルニーニョ現象が続く見込み。ニューギニアの東～太平洋東部では海面水温が平年より高く、積乱雲の発生が多いでしょう。一方、インド洋北部～フィリピンの東では、積乱雲の発生が少ないでしょう。

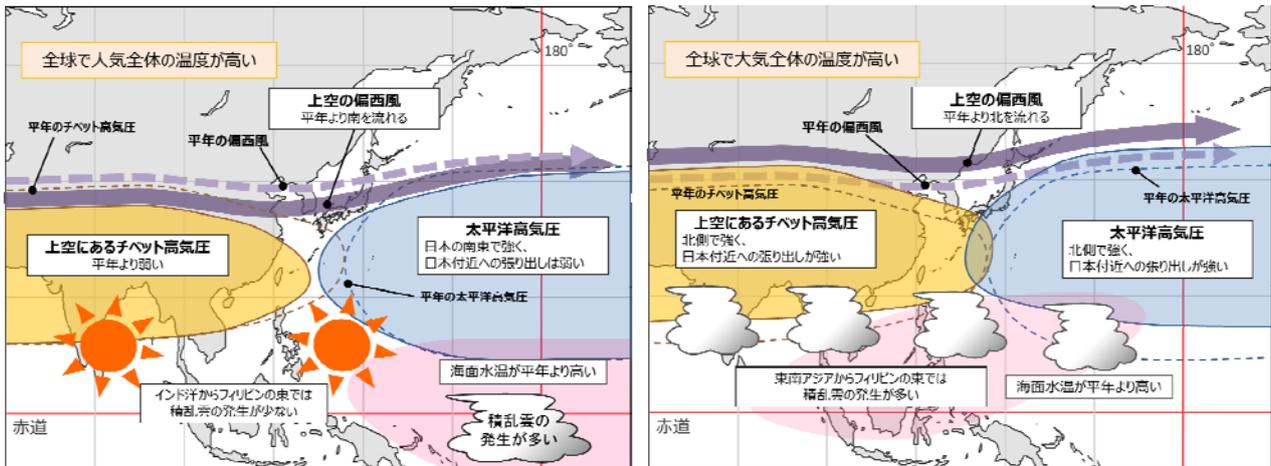
### 上空の偏西風

上空にあるチベット高気圧は平年より弱く、偏西風は大陸から日本付近で平年より南を流れるでしょう。

### 気圧配置

太平洋高気圧は日本の南東で強いが、本州付近への張り出しは弱いでしょう。

## 昨年の夏とは異なる(比較)



**今年 (2019年) 夏の予想**  
 チベット高気圧が弱く、  
 太平洋高気圧の日本付近へ  
 の張り出しも弱い予想

**昨年 (2018年) 夏**  
 チベット高気圧が強かった  
 ほか、太平洋高気圧の張り  
 出しも強かった

## この夏の注意点

- 平年に比べて晴れの日が少なく、不順な天候となりやすい予報となっている。
- 降水量は、平年並か多い予報、毎年のように梅雨前線の活動が活発になったときに大雨の災害が発生しているのので、常に最新の予報や気象情報等に留意していただきたい。

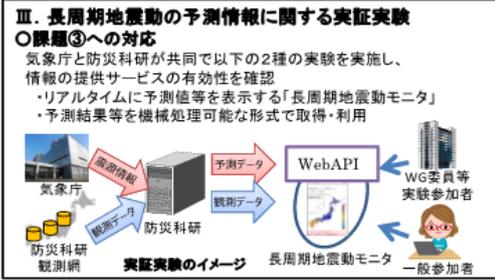
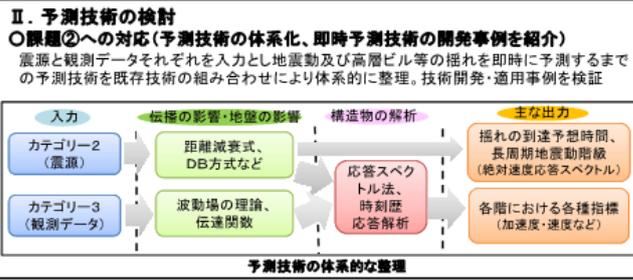


長周期地震動に関する情報検討会 多様なニーズに対応する予測情報検討ワーキンググループ報告書(概要)

はじめに  
○「長周期地震動に関する情報検討会平成28年度報告書」を踏まえた「多様なニーズに対応する予測情報検討ワーキンググループ」(WG)の開催経緯  
・長周期地震動の予測情報は「警戒・注意を呼びかける予測情報」と「多様なニーズに対応する予測情報」が必要  
・後者は民間の役割が重要であり、事業者が提供する予測の信頼性を担保するとともに情報が広く活用されるような仕組み作りの推進が必要  
⇒ WGを開催し、利活用方法、予測技術、利活用にあたっての留意事項などについて検討・検証  
○WGの検討課題  
課題①: 予測情報の利活用方法の検討、 課題②: 予測技術の検討、 課題③: 実証実験の実施

I. 迅速性と精度を踏まえた予測情報の分類と利活用方法の検討  
○課題①への対応 予測情報の迅速性と精度の観点から、予測情報を3つのカテゴリに分類  
3つのカテゴリごとの予測情報の利活用についてとりまとめ

カテゴリ-1 (気象庁の警報・予報(計画中))	カテゴリ-2 (カテゴリ-1の震源をもとにした事業者の予測情報)	カテゴリ-3 (カテゴリ-1及び観測データを用いた事業者の予測情報)
<p>・国民にあまねく警戒・注意を呼びかける予測情報</p> <p>【利活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の安全の確保</li> <li>不安感の低減</li> <li>混乱回避</li> </ul>	<p>・利用者のニーズに応じた地点や高層ビル各種の予測情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カテゴリ-1より精度が高い</li> <li>カテゴリ-1の入手が前倒しのためカテゴリ-1より後に提供</li> </ul> <p>【利活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エレベーター制御</li> <li>的確な館内アナウンス</li> <li>誘導要員の緊急配置</li> </ul>	<p>・リアルタイムの観測データを利用した予測情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観測された地震動をもとに作成するため、精度は高いが猶予時間は短い場合あり</li> </ul> <p>【利活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビルの健全性の応急診断</li> <li>揺れの収束の判断</li> <li>エレベーター点検・復旧</li> </ul>



IV. まとめと今後に向けて  
多様なニーズに対応する予測情報の利活用方法と予測技術を体系的に整理し実証実験等を実施。本WGの成果を踏まえ、以下の取り組みが必要  
・気象庁による国民にあまねく警戒・注意を呼びかける予測情報(警報・予報)の実現  
・長周期地震動の情報を広く社会に役立てるため、民間事業者による予測情報を安心して利用することが可能となるような仕組みの構築等の検討  
・今回整理した予測情報の社会実装に向け、今後さらに具体的な検討・検証を進めるための実証実験の拡大・継続